

日文研フォーラムは、国際日本文化研究センターの創設にあたり、一九八七年に開設された事業の一つであります。その主な目的は海外の日本研究者と日本の研究者との交流を促進することにあります。

研究という人間の営みは、フォーマルな活動のみで成り立っているわけではなく、たまたま顔を出した会や、お茶を飲みながらの議論や情報交換などが貴重な契機になることがしばしばあります。このフォーラムはそのような契機を生み出すことを願い、様々な研究者が自由なテーマで話が出るように、文字どおりインフォーマルな「広場」を提供しようとするものです。

このフォーラムの報告書の公刊を機として、皆様の日文研フォーラムへのご理解が深まりますことを祈念いたしております。

国際日本文化研究センター

所長 河合 隼雄

● テーマ ●

鎖国時代のロシアにおける 日本水夫たち

Japan Sailors in Russia in Edo Period

● 発表者 ●

ヴラディ斯拉ブ ニカノロヴィッチ ゴレグリヤード
Vladislav Nikanorovich GOREGLIAD

ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルグ支部極東部長

国際日本文化研究センター 客員教授

Chairman, Sanct-Petersburg Branch, Dep. of Far East,
Inst. of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences

Visiting Professor, Int'l Research Center for Japanese Studies



1999年11月16日 (火)

発表者紹介

ヴラディ斯拉ブ ニカノロヴィッチ ゴレグリヤード

Vladislav Nikanorovich GOREGLIAD

ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペテルブルグ支部極東部長

Chairman, Sanct-Petersburg Branch, Dep. of Far East,

Inst. of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences

国際日本文化研究センター 客員教授

Visiting Professor, Int'l Research Center for Japanese Studies

- 1975年2月 日本言語、日本文学博士（レニングラード国立大学、ロシア）
1975年～ レニングラード〔サントペテルブルグ〕大学日本語・日本文学教授
1982年11月～ ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペテルブルグ支部
極東部長
レニングラード国立大学日本語科長
1986年11月 山片蟠桃賞受賞
1997年4月 旭勲章受章

主な著書・翻訳

- 1963～1971年 日本写本・木版本・古活字本の目録、6 撒（共著）、
モスクワ、「ナウカ」（ロシア語）。
1970年 『兼好法師著「徒然草」』（序、ロシア語翻訳、解説）、
モスクワ、「ナウカ」、255頁。
1975年 『10～13世紀日本文学における日記・随筆』、
モスクワ、「ナウカ」、380頁。
1983年 『紀貫之』、モスクワ、「ナウカ」、143頁。
1990年 『8～16世紀日本文学史』、
サントペテルブルグ東洋学センター、400頁。
1994年 『かげろう日記』、（序、ロシア語翻訳、解説）、
サントペテルブルグ東洋学センター、347頁。
1999年 『保元物語』、（序、ロシア語翻訳、解説）、174頁。

一 はじめに

最近、日口関係はおもに政治経済問題が論じられています。しかし、私たちに
とって人間の個人的・文化的関係は重要です。

民族交流関係はまず第一に文化の出会いの意味をもっているのは明らかです。
この意味で古代日本も例外ではありません。奈良時代以前の神話に現れた天之御
中主尊・^{なかつぬしのみこと} 仏教と道教の思想は中央アジア・天竺・中国など古代文化交流の
実な
のです。

正倉院の宝物に代表されているように古代・中古日本において国際的な文化交
流は盛んでした。

奈良時代以来存続する校倉造りの建物に、当時の国際色豊かな宮廷文化の様子を物語る数
多くの品々が伝えられている。これらの品々は正倉院宝物と呼ばれ、天平文化の余香を伝
える高貴な宝物群として世界的にも広く知られている。¹⁾

一九六〇年に上海大学の調査団はアジアに伝わる説話を調べ、「平安初期の物語『竹取物語』はチベットに伝わる物語と類似している」と報告しています。形式も内容もほとんどおなじです。

ヨーロッパ人が初めて日本を知ることになったのはマルコ・ポーロが口述した『東方見聞録』（一二九八年）です。マルコ・ポーロは日本にきたことはありません。長年滞在した中国で日本の情報に接し「黄金に輝いている宝島、ジパング」伝説をヨーロッパに広めました。一五四三年、ポルトガル人はヨーロッパ人としては初めて種子島に到着しました。一五四九年八月十五日、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に到着しました。日本にキリスト教の世紀が始まったのです。

その当時ヨーロッパ人はイエズス会等の宣教師たちを通じて、キリスト教だけでなく古代ギリシア・ローマの文学作品を含むヨーロッパ文化を日本に持ち込みました。この事実は日欧文化の出会いの一つの出来事になりました。国際貿易をしているロシアの事もあきらかになりました。大槻玄沢（二七五七—一八二七）は次のように書いています。

我国にて「オロシヤ」といふ名は、近き安永、天明の頃よりして、地はいづれの方角といふ事は弁へねども、人々口にする事なりしが、これは百五十年も以前よりいふ「ムスコビヤ」の事なり…この国、皮革に名あり、蛮舶、この土産を国に齎し来り、その産を以て費人皮の名とす…このムスコビヤは、もと都府の名にして、全州の総名となるぞ、惣洲の本名はリュシヤ又ヲロシヤ、又オロシイスコイとも云ふよし。²

江戸時代の初めに、幕府の鎖国令によって日本の国際交流はとだえ、遠洋航海用の船をつくる事を止め、船は太平洋に航海する事がほとんど出来なくなりました。

二二 日本に関する最初の記録

日本がロシアの地図にはじめて登場するのは、一六五五年から一六六七年にかけて編集された『世界図』（Козмография）（オランダの地理学者メルカトル Mercator の『地図帖』（一五六九年）を見本とした作品）³です。地図としては粗末でしたが、この図に示されたヤパンは、日本への関心を深めていく契機となり